

令和4年度

関係人口創出・拡大のための
中間支援モデル構築に関する調査・検討業務

業務実施報告書
(概要)

団体名	株式会社あしたの寺子屋
事業名	都市部×地方部をごちゃまぜにした越境教育事業を通じた 関係人口の創出・拡大
選択テーマ	まなび関係人口について（しごと関係人口について）

- 教育×地方創生・関係人口創出に向け、都市部×地方部の子ども・大人が関わり合う宿泊型プログラムである「シャッフルキャンプ」を実施した。
- また、全国各地の様々な子ども・大人が「学び」を通じてオンラインで関わり合う取組を実施した。

主な活動内容

1. シャッフルキャンプの実施

- 2022年7～8月に、北海道美幌町・青森県南部町・鹿児島県与論町で3泊4日の宿泊型オリジナルサマーキャンプを実施。
- 地域との繋がりを深め、プログラム終了後も関係が継続することを狙って、アウトプット制作をプログラムの中核とした。
- 地域の特性等に応じて、自然体験・カヤック体験・農業体験・マリンアクティビティ・歴史ツアー・文化体験等を実施。

2. オンラインコンテンツの実施

- 当社とパートナーシップを締結する全国各地の寺子屋がオンライン上で繋がる空間をつくり、地域に関するクイズを出し合う等、地域間の繋がりをや地域を超えた交流を生み出す取組を実施。

主な成果

1. 参加者や地域の声

- 参加者21名全員が事後アンケートに対して「また行きたい」と回答し、「また〇〇さんに会いたい」「住んでいる地域との違いを感じた」等の声もあった。
- 地域関係者（体験活動の受入先、メディア関係者等）や地域住民から「今後も継続して取り組みたい」等の声があった。

2. 事業を通じて得られた気づきや知見

- シャッフルキャンプ期間中、家庭に持ち帰ることのできるアウトプットを制作したことで、参加した子どもたちのみならず、保護者も含めて関係人口化することができた。
- 成果を発信・普及していくことで地域側の様々な関係者からも好反応があり、今後の継続実施に向けた基盤構築ができた。



美幌町でのプログラムの様子



南部町でのプログラムの様子



南部町でのプログラムの様子



与論町でのプログラムの様子

課題解決のための取組と成果

【課題（１）①】都市部の子どもたちや保護者にとって、地方部での教育・学びの場に参加する価値とは何か？

- 都市部（関東圏等）の子どもたちや保護者にとって、**参加費を払って取って地方部での学びの場に参加することの価値**を明確にする必要がある。
- そのため、様々な地域関係者との関わりを持つことのできるプログラム設計とした。

【課題（１）②】都市部の子どもたちや保護者が地方部と継続的に関わり続けられる仕組みとは何か？

- 都市部住民がプログラムに参加したとしても、その関わりが一過性になってしまうことは望ましくないため、**長期・継続的に関わる仕組み・仕掛け**を設けることが必要である。
- そのため、シャッフルキャンプを開催した3地域それぞれで**SNSグループを作成し、継続的に関わり続けられる仕組み**を用意した。

【課題（２）①】地方部として、教育をきっかけに都市部との関わりを持つことの価値とは何か？

- 単に都市部から人を受け入れるだけでは**地方部が疲弊していくという結果になりかねないため、地方部にとっての価値**を明確にする必要がある。
- そのため、地域側が「やりたい」「外の参加者に体験してほしい」と思える自主性を大事にしてプログラム設計を行った。

【課題（２）②】地方部が自立・自走して取り組むために押さえるべきポイントとは何か？（体制・財源等）

- 常に潤沢に資金的支援や体制的支援等を得られるわけではないため、地方部が自立・自走して取り組むための**価格設定・運営体制・広報等の多様な機能の在り方**について検討する必要がある。
- そのため、各地域の事業者との丁寧な振り返りを行い、自立・自走して取り組むために必要なポイントは何かを検証した。

- 参加者への事後アンケート調査では、「今回のシャッフルキャンプは楽しかったか？」「もう一度、〇〇町に行きたいと思うか？」という設問に対し、**美幌町・南部町・与論町の全ての参加者から「楽しかった」「また行きたい」との回答**が得られた。

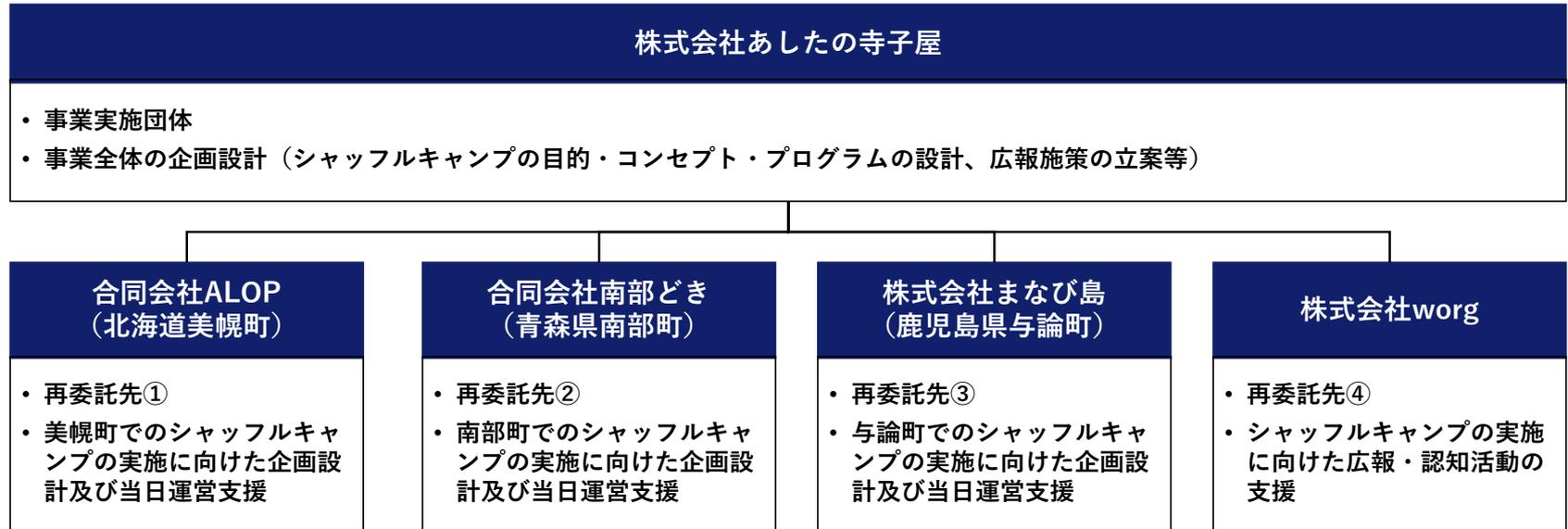
- SNSグループの中で様々な情報を発信することにより、単発での関わりにならず、**地域及びその地域に暮らす人々への愛着**が強くなっていったと推察する。

- シャッフルキャンプを開催した3地域それぞれから**「また実施したい」という強い意向**が得られた。

- また、メディアやSNS等での成果の発信・普及を通じて、その他の**地域関係者もこのような取組の価値と可能性**を感じており、**地方部にもプラスの影響**を生み出すことができたと考える。

- 地域の様々な関係者（民間・行政）と**連携して、体制・資金等を確保**していくことが重要だと分かった。
- 単一の資金策では成立しないことを想定し、①参加者負担、②地方公共団体負担、③企業負担といった様々な手法を組み合わせることで**必要性を認識**した。

事業実施体制・関係機関



自立化・自走化の検討

- シャッフルキャンプのような地域内外の関わりを生み出すプログラムを実施する体制としては、**中長期的には地域事業者が主催・主導**していくことが望ましいと考える。
- また、このようなプログラムを実施していく際の費用については、①**参加者負担**、②**地方公共団体負担**、③**企業負担**といった複数**手法の組み合わせ**で対応していくことが必要である。
- ①による収入をベースとしつつ、それだけでは企画運営にあたっての費用を全て賄うのが困難なケースが多いため、②で**部分的に補完**していくことが重要である（例：宿泊施設の無償または減免利用、車両の無償貸与、備品の無償貸与等）。

横展開の可能性

- 他の教育団体や地域団体等との連携**によって、次年度以降の継続開催・他地域への横展開を狙う。
- 具体的には、**一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム*等との連携**により、様々な団体の有する地域ネットワーク・人的ネットワークを活用して**多地域展開を目指す**。

*地域・教育魅力化プラットフォーム：意志ある若者にあふれる持続可能な地域・社会の実現を目指し、「地域みらい留学」等の越境的なプログラムを実施。